

2025年3月5日

新年に入り初めて公務のない週末。20世紀三大建築家のひとりミースの最高傑作住宅「ファンズワース邸」を訪れた。ミースは、バウハウスがナチスにより閉鎖された後、米国に亡命してイリノイ工科大学で教鞭をとった。ミース設計の高層建築が林立するシカゴ市内から車で80分、目の前を川が流れる豊かな自然と一体となって佇んでいる。“less is more”（より少ないことはより豊か）を実感する。



1 “Heart of America”日米協会（カンザスシティ）

2月1日、“Heart of America”日米協会の一大恒例行事である新年会にご招待を受けてカンザスシティに赴いた。かつてカンザスには日本総領事館が置かれていた。2004年にシカゴ総領事館に統合された後も、日米協会の歴代のメンバー他が草の根交流を育んできた。そんな功労者のお一人、幸江ストローダー様に、会長職を含めた数十年にわたる多大な貢献に敬意を表して、外務大臣表彰をお渡しさせて頂いた。新年会には、在カンザス総領事館の元職員3名も参加しており、当時のお話を伺うこともできた。



新年会での鏡開き



幸江さんに外務大臣表彰

2 州知事や大学の招待を受けて

2月19日、プリツカー・イリノイ州知事の招待を受けて州都スプリングフィールドに赴く。スプリングフィールドはリンカーンの地。家と墓の他、リンカーンが活動していた旧議事堂（オバマも大統領出馬宣言を行った場所でもある）も保存されている。

知事の数名のゲストの一人（外国人は自分だけ）として施政方針演説を傍聴。演説前にアレンジされていた知事夫妻との懇談の際に、離任挨拶。その後、議会の国際関係・観光・貿易委員会メンバー他の州議員10数名と意見交換。驚くことに全員訪日歴がない！大阪万博視察も含め、委員会としての訪日視察を強く薦めておいた。



プリツカー知事夫妻との懇談



州議員との意見交換会

3月1日（土）、建州記念日晚餐会に御招待いただき、最後のネブラスカ州出張。州議事堂内ホールで400名規模の晚餐会。昨年と同じくホール中央のピレン知事夫妻のメインテーブルに御案内頂いた。今回は単身で、着物姿の妻が隣にいた昨年と異なり「日本総領事がきている」ということが一目稜線ではなかったことが残念。

3月5日、ウィスコンシン大学マディソン校のフィールズ東アジア研究センター副所長による「1893年以降の東アジアと米国」の授業の一コマをお借りする形で学部生40人と対話。学生は「アジアにおける日本のモンロー主義」「真珠湾への道」の講義を既に受け、これから「対日占領」「1980・90年代の日米関係」「米国・東アジア関係の展望」の講義が今後続くタイミング。日米関係や日本に関する日本の視点を自分から一方的に発信するだけではなくて、学生との双方向対話からは、いつも新鮮な驚きと知見を得られる。



ネブラスカ建州記念日晚餐会



マディソンでの学生との対話

3 天皇誕生日祝賀レセプション（2月21日）

シカゴ圏はもちろん、管轄州各地から約200名。本当に多くの方々に集まって頂いた。カンザス州副知事、インディアナ州務長官、シカゴ連銀総裁、（杉原千畝から「命のビザ」発給を受けた）メラメド氏から御挨拶を頂いた。その他、各地の市長、日米協会関係者、日本企業の方、西部ネブラスカで日本ホールを設立した方を含めた日系人の方々等。各州で日本を代表している名誉領事には、自分の挨拶の際に一緒に登壇頂いた。この機会に、グラント前（初代）アイオワ名誉領事に対して天皇陛下からの叙勲伝達式も執り行った。

3月中旬に帰国することを事前にお伝えしていたこともあり、心温まるお言葉を数多く頂いた。着任以来、濃密な日々だったので、実際の2倍の時間が過ぎ去った感覚だ。お一人お一人と言葉を交わすと、色々な思い出が脳裏に蘇ってくる。今回のレセプションを含めて、総領事館スタッフの日々の献身と貢献に心から感謝したい。支えてくれている妻の典花、西村料理人、公邸職員、運転手。そして、何よりも、応援してくれている米国と日本の双方のパートナー・友人に。



名誉領事と一緒に壇上で挨拶



スタッフとの全員集合写真